

## 豊かな心を持ち、よりよく 生きようとする上木っ子の育成



浦和区 上木崎小学校 研修主任 **松本 繁美**

### 1 はじめに

本校では、国、県及び市の教育指針を受け、児童の実態や課題、家庭・地域の願いや児童を取り巻く教育環境の変化を鑑み、日常生活における児童の「道徳的実践力」を育成することが重要であると考え、本研究に取り組んだ。新学習指導要領の道徳教育の趣旨を踏まえ、道徳の時間の授業の進め方を中心に2年間の実践的な研究を進めた。

### 2 研究の概要

#### (1) 研究主題について

小学校6年間の教育活動を通して、道徳的価値の自覚及び自己の生き方について考えを深め、日常生活の中で道徳的実践ができる児童を育成すること、そして「自律心、自尊心、向上心」「思いやりの心」「動植物愛護の心」「感動する心」「奉仕の心」などの心を持ち、「昨日の自分より今日の自分」「今日より明日」と、人間としてよりよく生きていこうとする児童に育ってほしいと考え、研究主題を「豊かな心を持ち、よりよく生きようとする上木っ子の育成」と設定した。

主題の「豊かな心」については具体的に以下のように考えた。

#### 「豊かな心」

- ・困っている人がいればやさしく声をかける。
- ・ボランティア活動など人の役に立つことを進んで行う。
- ・喜びや感動をもって植物や動物を育てる。
- ・日常生活の中で少しでも自分をよくしてい

こうと心掛け、自分の成長を素直に喜ぶ。

- ・人の喜びや悲しみを共有する。
- ・美しいものを美しいと感じる。

などである。

#### (2) 研究のねらいについて

道徳の時間の充実、道徳と各教科等との関連、家庭・地域との連携により、児童の道徳的実践力を育成する。

### 3 研究の内容

#### (1) 道徳の授業の充実

##### 「よりよい道徳の授業」を目指す

道徳教育の要となる授業とは、いったいどのような授業か、学習のねらいを明確にし、学習過程（導入・展開・終末）をどのように行えば、よりよい道徳の授業が成立するのか授業実践を通して明らかにした。

#### ☆映像、ワークシートを使った授業実践



<第3学年「正々堂々と」1-(4)反省、誠実・明朗 研究発表会から>

## (2) 道徳と各教科、総合的な学習の時間、特別活動及び潤いの時間などとの関連の明確化を図る。

### 全教育活動において道徳教育を進める

全教育活動において道徳教育を進めるためには、職員間で道徳教育の内容に関する共通理解を図るとともに、学校の教育活動全体の中でどのような形で道徳教育を推進できるか洗い出す必要がある。

そこで、各教科部会、学年会等において、各教科及び学年の道徳教育全体計画を作成し、各教科・総合的な学習の時間、特別活動及び潤いの時間などとの関連を明らかにし、学習活動に生かした。

## (3) 家庭・地域との連携を図る

### 「心のふるさとづくり」を推進する

「子どもは、地域環境で育つ」と言われる。自分自身の誇りの源となる家庭や地域の教育力は計り知れず、自尊感情を高め、将来にわたって道徳的実践力を発揮しようとする心を培う場である。家庭や地域と連携を図りながら、児童が自分自身を振り返り、心のよりどころ、行動の指針となりうる「心のふるさとづくり」を共に進めることが必要であると考えた。そこで、今まで積み上げてきた家庭・地域と連携している諸活動を洗い出し、改めてその連携を強化した。

## 4 研究のまとめ

### (1) 成果と課題

#### 成果

#### ○道徳の授業の工夫

- ・道徳授業の導入・展開・終末を児童の実態に応じて工夫することにより、意欲をもって学習に集中させるにはどうすればよいかを明らかにできた。
- ・心のノートを用いて、保護者からのコメントを活用して導入の工夫をすることにより、子どもたち自身のこととして資料を受け止めることができた。
- ・道徳の授業を行うにあたっては、①ねらいとする価値の明確化 ②教師自身が感動する資料の選択 ③授業デザインを教師が楽しむポイントをポイントとして、児童が真剣に学べる授業の展開を図ること等が大切であることが明確になった。
- ・よりよい生き方とはどんな生き方なのか、道徳の授業を通して、児童とともに考える

ことができた。

### ☆映像や話し合い活動を取り入れた授業の実践



<第5学年「夢に向かって」1-(2) 希望、勇気、不撓不屈 研究発表会から>

#### ○他教科との関連

- ・他の教科と関連させることにより、より広い視野に立って児童を理解し、教師自ら道徳的価値の自覚を深め、指導に生かすことができた。
- ・教科や学年の年間計画を作成することにより、教育活動の関連がよく理解でき、いつ、どのような指導を行えばよいのか年間指導の見通しをもつことができた。さらに、他の教科においても、道徳的価値の自覚を促す指導を実践することができた。

#### ○家庭・地域との連携

- ・心のノートなどを使って家庭と連携を図ることにより、学習に深みを持たせられた。
- ・懇談会で道徳の授業について触れることで道徳的価値を家庭においても意識してもらうことができた。
- ・「上木崎小研究便り」を発行し、学校の取り組みを家庭や地域に知らせることにより今まで以上に協力を得られることができた。

#### 課題

- ・道徳教育の研究から、児童のよさを多面的に見ることができ、児童理解を一層図ることができた。さらに、道徳教育の充実を図るために、日々の実践を積み重ねる。
- ・本研究で作成し、分類した資料を今後さらに活用し、道徳の授業の一層の充実を図っていく。